

慈圭病院の 叙勲に関する歴史

～令和6年度春の瑞宝中綬章を受けて～

- 新理事長就任のごあいさつ
- メンタルヘルス講座「不安と落ちつかなさについて」
- 減酒外来のご案内
- オープンホスピタルを開催します
- ZIKEI NEWS
- シリーズ【作業療法】第3回



きょう ちくとう

夾竹桃

Zikei Hospital PR Magazine
"OLEANDER"

Summer

なつ

2024



岡山後楽園(岡山県・岡山市北区)

慈圭病院の 叙勲に関する歴史

～ 令和6年度春の瑞宝中綬章を受けて ～

名誉理事長・名誉院長 堀井 茂 男



慈圭病院は、昭和27年の創立以来、「わが子でも安心して任すことのできる精神科病院」の理念のもと、理想的なあり方を目指して毎日診療を続けてきています。初代院長の伊原重彦先生は質実剛健な方で体裁や功名心には目もくれず、「食事費は存分に…」と食事に気を配るなど実質的な当事者サイドの医療を実践されました。二代目の大重彌吉先生は当事者の気持ちを大切にされる先生で人間禅老師を務められるとともに、日本精神科病院協会（以後、日精協）の常務理事など岡山県だけでなく全国的な活躍をされ、平成5年に逝去された後、正五位勲三等瑞宝章が授与されました。三代目の藤田英彦先生は海軍兵学校の厳しさを持ちながらも優しく、家族会、患者会の育成、開かれた病院を目指され、日精協の理事としても活躍され、平成12年秋の叙勲で勲三等瑞宝章（現在の瑞宝中綬章）を受章されています。

そして今年、令和6年の春の叙勲に際しまして、私がかからずとも瑞宝中綬章の栄に浴しました。4月29日に新聞発表があり、5月8日岡山県庁にて伊原木隆太岡山県知事より勲章の伝達式、5月10日ホテルニューオータニ東京にて、厚生労働大臣より勲章の伝達並びに受章者式典があり、副大臣の祝辞の後、夫婦で皇居へ参内し、豊明殿にて天皇陛下に拝謁を賜りました。その後、皇居内での記念撮影に臨み感激の極みでございました。これはひとえに永年にわたる皆様方のご支援ご指導の賜であり、当事者の方々、諸先輩、同僚、病院スタッフ、関連する地域の方々々に心より感謝申し上げます。

受章の理由としては、精神保健福祉に関する功績、主として精神科医療の発展に尽くした功

績です。私は、昭和48年岡山大学医学部を卒業して精神科医となり、岡山大学附属病院などで研鑽を積んだ後、40歳から地域の医師としての活動を目指し、昭和61年から慈圭病院に奉職し、病棟医長…院長、理事長を歴任、それぞれの役職としての医療及び病院経営にあたり、精神障がい者の待遇改善、地域移行の推進、医療施設の充実などに努めました。他方、岡山県、岡山市の精神保健行政に貢献するとともに、岡山県精神科病院協会、日精協等の医療関係団体の役員として尽力してきました。また、岡山いのちの電話協会や日本いのちの電話連盟の理事、理事長として相談事業の運営、その発展に協力するとともに、厚労省の自殺対策関連の会議に出席し全国の自殺予防活動への参加、協力、さらに、アルコール健康障害対策基本法の制定およびその後の対策への貢献や、岡山労働局労災医員（精神科部会医員）として労働行政にも力を注ぎました。

今後の私のあり方としては、これまで同様精神科医療の最前線で患者さまに寄り添い「五つの“あ”療法」（焦らず、慌てず、諦めず、あるがまま、ありがとう）の心を基本に、皆様と共に歩む医療に努める所存ですので、引き続き何卒よろしくご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

なお、令和6年5月の決算理事会におきまして、理事長職を後任の武田俊彦院長に交代し、今後は名誉理事長・名誉院長として新体制を支えていく所存です。今後とも地域のこころの拠り所、心の相談が気軽にできる病院として活動を続ける慈圭病院をよろしく願いいたします。

新理事長就任のごあいさつ 寄り添い支える医療

理事長・院長 武田 俊彦



このたび、公益財団法人慈圭会慈圭病院の5代目の理事長となりました武田俊彦です。

私は、昭和60年に岡山大学を卒業してすぐに大学院生となり、同時に慈圭病院で働くことになりました。当時は、慈圭病院で1週間に1日、昼間の勤務と夜間の当直を行い、それが唯一の収入で、残りの日は精神科大学院生の立場で学費を払いながら岡山大学附属病院で研究と臨床に携わっていました。大学院を卒業後、神戸市立西市民病院に勤務し、平成5年から再び慈圭病院で精神科医をしています。

昭和60年頃の慈圭病院は今とずいぶん違いました。空港線に面した現在の駐車場と東館は、バックネット付きの巨大な運動場でした。当時から塀がありませんでしたが、周囲を巨大な夾竹桃が点々と囲んでいました。現在570床の病床は当時528床、建物は全て2階建てまでで、広い敷地に点々と病棟や管理棟があり、それを屋根のついた渡り廊下がつないでいました。ずいぶん広々としていました。まだ、広汎性発達障害や認知症の診断件数は今のようになく、治療支援体制も発達途上でした。慈圭病院の医師数はアルバイト医を入れても14人ほどで、今は43名ですのでずいぶん医療体制も異なりました。

一方で、昭和60年の慈圭病院ではすでに色々な新しい試みが始まっていました。通所リハビリのためのデイケアや、単身生活支援のための共同住居の運営、訪問看護部の活動はすでに軌道に乗っていました。職業リハビリのために地域の事業者の皆様との連携は50数社に及び、たくさんの当事者の皆様が保護された環境で働かれていました。また、昭和51年に設立された救

護施設浦安荘からは多くの利用者が巣立っていました。当時からいち早く慈圭病院は、「治す医療」だけでなく、「治し支える医療」に取り組んできたといえます。そして、その姿勢を発展させて今があります。

現在慈圭病院は、青年期から老年期まで年代特異的な精神科医療に対して専門医による専門外来を開設しています。精神科救急外来と連動する救急急性期病棟を設置して、地域での精神的急変に対応しています。また、リハビリ部門や地域生活支援部門を充実させて、早期の円滑な退院を支援しています。外来医療においては、地域で生活しながら利用できる通所型のリハビリや単身生活支援のための入所型リハビリ、訪問型支援など、息の長い治療、支援体制を整えています。慈圭病院の理念は「わが子でも安心して任すことのできる精神科病院」です。今ここでの医療、看護、接遇に最新、最善を求め続けることはもちろん大切なことですが、安心のためには、将来にわたって必要な時に誠実に寄り添い続ける体制を整えることは欠かせません。そして、その体制をより豊かなものにするために、社会の色々なところですでにそのような支援を始めていらっしゃる医療や福祉の皆様と、血の通った連携を築くことも私たちの重要な責務と考えています。

慈圭病院は、常に考えています。そして少しずつ変わっています。これは今後も続きます。

不安と 落ちつかなさ について



講師
城戸 高志
病棟医長

不安の時代

昔は「石の上にも三年」といって我慢していると何とかなっていくということがそれなりに現実的でした。今はSNS等を通して不安が高まる情報に自然と触れる機会も増え、我慢して経験を積んでも、ひょっとしたら会社またはその業種自体がなくなってしまうのではないかとといった不安も現実的になっています。会社でも、不調な人を周りがサポートする余裕もなくなり、ただ我慢していれば適応できるようにするという時代は終わったと思います。

不安とその対処

不安は嫌な感情なのでなくしてしまいたいという人も多いです。でも、生きている以上不安はなくなりません。1つの不安を解決することはできても、すぐ次の不安が出てきてしまいます。不安をなくそうとそうしていると緊張して交感神経が興奮した状態が続きます。すると睡眠の量、質ともに悪くなりますし、疲弊して、もっとがんばれない自分を責めて余裕がなくなり、余計に不安が強くなる悪循環を招きます。

疲弊している時にまず必要なのは睡眠と休養です。しかし、何もしないでいると不安が浮かんできてしまうので、対処として起きている間ずっと携帯電話をいじってしまっている人も多いです。その方法だとその日1日をしのぐことはできますが、より疲弊してしまって、悪循環から抜け出すことは難しくなります。不安をなくそうとせずに、

不安になっている自分を受け入れて、ねぎらって、少しの間他のことをして気持ちを切り替えぼーっとするということを繰り返していると不安を置いておけるようになってきます。自分自身でこれができるばいいですが、言うは易し行うは難しなので精神科受診を考えてもいいと思います。お薬を利用してうまく休めるようになることも役に立ちます。このことはちょっと難しいので詳しく知りたい方はYouTubeで「城戸高志」と検索して出てくる動画 [YouTubeはこちら▶](#) を見てください。



我慢よりしなやかさ

私のもとに訪れる患者さまは自分ではもっと強くないといけないと思っている方が多いですが、実際はもう十分強い方がほとんどです。強いけど、対処法が我慢するしかないのでストレスがかかると折れてしまいます。必要なのはストレスがかかっても竹のようにしなって元に戻ってくるしなやかさです。しなやかさを手に入れるには愚痴を言うこと、相談すること、手を抜くこと、人を頼ること、休養を取ることです。よろしければ実践してみてください。



参考書籍

- ・『10代のうちに知っておきたい折れない心の作り方』 水島広子 紀伊國屋書店
- ・『10代の子をもつ親が知っておきたいこと』 水島広子 紀伊國屋書店
- ・『安心のタネ』の育て方』 浅井咲子 大和出版
- ・『ちゃんと泣ける子に育てよう』 大河原美以 河出書房新社



減酒外来

のご案内

令和6年2月19日、厚生労働省は「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」をまとめました。このガイドラインでは、「酒に含まれるアルコールの量＝純アルコール量」で健康へのリスクを示しています。また、健康に配慮した飲み方として、あらかじめ量を決めて飲む、飲酒前や飲酒中に食事や水をとってアルコールをゆっくり吸収できるようにする、などを提案しています。

このようにアルコールと健康について関心が高まっている状況をふまえて、当院では、お酒の量を減らし、問題を軽減することを目標とした「減酒外来」を始めました。従来のアルコール治療は、お酒をやめること（断酒）に重点が置かれてきました。しかし、なかなか断酒までは踏み切れないという方はたくさんおられると思います。すぐにお酒をやめることができない場合でも、飲酒量を減らすことによって、健康面や社会面での害をある程度減らすことが期待できます。また、そこまでアルコールに大きな問題がない方も、重症化する前に治療を受けることで、今後のお酒との付き合い方を健康的なものにできる可能性があります。決して「お酒をやめなさい」と責められることはありませんので、お気軽にご相談ください。

受診対象

- ・ご自身のアルコール習慣が気になっている方
- ・周りからアルコールを減らした方がいいと言われた方
- ・アルコールの量を減らしたり、付き合い方を変えてみたいと考えている方

※入院治療を希望されている方は、従来のアルコール外来にご相談ください

※すでに当院のアルコール外来を受診されている方は、そちらでの治療を継続してください

診察時間（毎週火曜日）

初診 13:30～

再診 14:30～

減酒プログラム 15:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。

問い合わせ先

TEL 086-262-1191（代表）

月～金 8:30～17:30（祝日・年末年始を除く）

看護師就職希望者向け

オープン ホスピタル 開催

令和6年 **8月6日(火)**

時間：9:30～12:00 場所：慈圭病院

対象：看護師・看護学生

【タイムスケジュール】

- 9:00～ 受付（正面玄関ホール1F）
- 9:30～ オリエンテーション
- 9:40～ 病院・看護部の紹介
- 10:30～ 部署見学
- 11:30～ 先輩看護師との交流会
- 12:00 見学会終了

慈圭病院

申し込み締め切り
2024年7月19日
定員になり次第締め切ります

**オープン
ホスピタル**

9:00～ 受付（正面玄関ホール1F）
9:30～ オリエンテーション
9:40～ 病院・看護部の紹介
10:30～ 部署見学
11:30～ 先輩看護師との交流会
12:00 見学会終了

開催日 **2024年8月6日(火)**
時間 **9:30～12:00**（予定）
場所 **慈圭病院** 対象：看護師・看護学生

お申込みURL
<https://www.zikei.or.jp/kango-2024>

【お問い合わせ先】
慈圭病院 看護部
TEL 086-262-1191
（平日 10:00～17:00）
〒702-8508
岡山市南区浦安本町100-2



お申し込みはこちらから！（定員になり次第締め切ります）

お申込みURL：<https://forms.gle/PncGs4h9vXYpbTXS6>



診療報酬改定により、令和6年6月1日から 入院時の食事療養費の負担額が変更になりました

所得区分		1食あたりの食事代
住民税課税 現役並み所得者・一般		490円
住民税非課税 低所得Ⅱ	過去1年の入院日数 90日目まで	230円
	過去1年の入院日数 91日目以降	180円
低所得Ⅰ		110円

左表の**太字部分**は、マイナンバー保険証を利用されますと、「限度額適用・標準負担額減額認定証」の交付申請が不要場合があります。

(ただし、入院91日目以降の食事代は申請が必要です。申請後交付された限度額適用・標準負担額減額認定証は、当院受付窓口へご提示ください)

シリーズ【作業療法】第3回

外来通院中の患者さまへの作業療法について

安心できる日常生活や社会参加をめざした支援

作業療法の「作業」とは「したいこと、しなければならな
いこと、期待されていること」
などご本人にとって意義のあ
る生活行為を指します。意義
のある生活行為ができるよう
に支援する作業療法は、患者
さまの健康や幸福を回復・増
進するために行われる大切な
リハビリテーションのひとつ
です。外来作業療法は、通院
の形で提供される作業療法で
す。

【どのようなことが 期待できますか？】

利用目的は患者さまごとに
異なります。具体的な例とし
ては「引きこもりの防止」「安
心して過ごせる居場所づくり」
「生活リズムを整える」「楽し
む体験」「人に馴れる」「集中
力をつける」「就学・就労準
備」などで、就労を目指す方
には、精神保健福祉士と連携
し、通所先の見学などもおこ
なわれます。

なっています。安心して社会
参加につながるステップとし
てご利用いただけます。

【どのような人が 利用していますか？】

年齢は10代から60代まで幅
広く、疾患や生活での困りご
ともさまざまです。

【どのようなことを しますか？】

集中力や遂行機能（一連の
動作を計画的に実行する力）、
コミュニケーション能力など
生活に必要な能力を向上させ
るために、手芸や音楽など
個々で好きな活動や必要と思
われる活動を選んでいただき
取り組みます。作業療法室は
リラックスできる空間である
ことを大切にしており、同じ
部屋で10名程度の方がそれぞ
れの目的に応じた活動をして
います。

でも人と接することが難しい
方は、作業療法士とマンツ―
マンで活動し、家族以外の人
と馴れることを目標にした支
援もおこなっています。少し
ずつ親から離れ、自分らしさ
を模索する時期でもあり、こ
どもから大人へと向かう大切
な時期に配慮しながら進めて
いきます。

【いつまで
していますか？】
月・水・金曜日午前、作業
療法棟1階で常時2名の作業
療法士が対応しています。
また、青年期外来作業療法
は木曜日の午後におこなって
います。

ご本人にとって、安心でき
る日々の生活や社会参加につ
ながる支援を心掛けておりま
す。見学や利用を希望される
方は、まずは主治医にご相談
ください。

外来担当医師

完全予約制

令和6年7月1日現在

診療時間

9:00～15:00

初診／受付時間

8:30～11:00

専門外来

- アルコール
- 禁煙
- もの忘れ
- セカンドオピニオン
- 青年期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
再診	岡田 志保 松田 旭生 藤沢 卓弘	石津 秀樹 難波 多鶴子 武田 俊彦 渡部 一予 池田 智香子 青木 省三	堀井 茂男 山内 裕子 城戸 高志 的場 翔也 栗山 裕	武田 俊彦 石津 秀樹 安田 華枝	岡 沢郎 鷲田 健二 蜂谷 知彦 山下 理英子	定期の診察はありません
専門外来	(アルコール初診) 山下 理英子	(アルコール初診) 担当医				
		(アルコール再診) 堀井 茂男 山下 理英子 (禁煙) 的場 翔也	(もの忘れ) 石津 秀樹	(青年期) 担当医	(アルコール再診) 堀井 茂男 山下 理英子	

慈圭病院の理念

わが子でも安心して任すことのできる
精神科病院

創立以来、職員ひとりひとりが、患者さまとご家族の信頼にたる病院であることを問い続けています。

五大基本原則

- 1 慈愛の医療**
ひとりひとりの患者さまに、慈愛と尊敬のころをもって快適な医療を提供します。
- 2 最先端の精神科医療**
急性期医療からリハビリテーション、地域医療まで、良質で、最先端の精神科医療を実践します。
- 3 最高水準の医療倫理**
ヒューマニズムに根ざした至高の医療倫理を保ち、安全で安心、納得のいく医療を実行します。
- 4 積極的な地域貢献**
地域との連携を密接にし、精神科基幹病院としての役割をはたすとともに、こころの病の理解のための教育、啓発活動を積極的に行います。
- 5 チャレンジ精神**
私たち病院スタッフは、常にチャレンジ精神を忘れず、和の力を結集し、さらなる挑戦、実践を行います。

病院へのアクセス

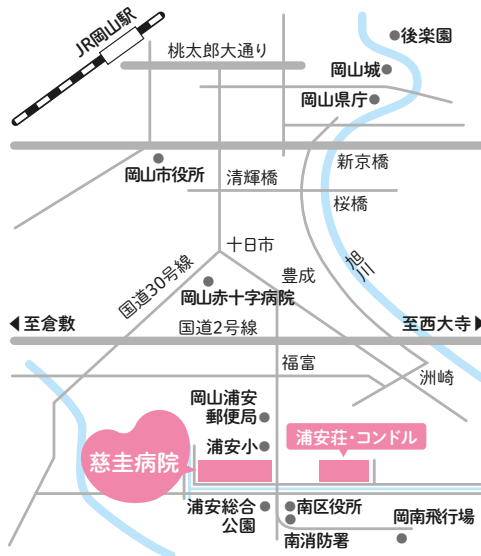
JR岡山駅より南へ約8km(浦安総合公園近く)

車で

広島方面から……国道2号線「青江」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分
大阪方面から……国道2号線「福富」で側道へ、「豊成」交差点を南へ約10分

バスで

岡電バス……JR岡山駅前より「浦安体育館・岡南飛行場行」に乗り、「慈圭病院」下車(岡山駅より約30分)



お問い合わせ

☎ (086) 262-1191 受付時間 8:30～17:30

24
時間

精神科救急対応

時間外・休日の急患対応いたします

ホームページもご覧ください <https://www.zikei.or.jp/>